

平成25年3月期 決算説明会

2013年5月17日

阪和興業株式会社

- ・ **売上高**

鉄鋼事業や金属原料事業での販売価格の低下などにより、売上高は前期比3.4%減の1兆5,113億24百万円となりました。

- ・ **当期純利益**

販売価格の下落による販売収益の減少に加え、期中での円安基調への転換による為替差損の発生により、経常利益段階では減益となりましたが、特別損失等の減少により、当期純利益については前期比1.9%増の47億20百万円となりました。

- ・ **配当**

期末配当は8円を予定しており、この結果、年間配当は12円となる見込みです。

経営成績(連結)

(単位:百万円)

	当 期	前 期	増減比
売上高	1,511,324	1,564,250	△3.4%
売上総利益	44,762	46,346	△3.4%
販管費	32,271	31,369	+2.9%
営業利益	12,491	14,976	△16.6%
営業外損益	△3,620	△1,860	+94.6%
経常利益	8,871	13,116	△32.4%
特別損益	△2,053	△4,670	△56.0%
税引前純利益	6,817	8,445	△19.3%
法人税等	2,033	3,710	△45.2%
少数株主損益	62	102	△39.2%
当期純利益	4,720	4,632	+1.9%
包括利益	6,600	6,214	+6.2%

・売上高

主に鉄鋼、金属原料、非鉄金属事業における販売価格の下落などにより、前期比3.4%の減少。

・営業利益・経常利益

販売価格の下落による利益低下に加え、営業外で為替差損の発生もあり、それぞれ前期比16.6%、32.4%の減益。

・当期純利益

特別損失や法人税等の減少などにより、前期比1.9%の増益。

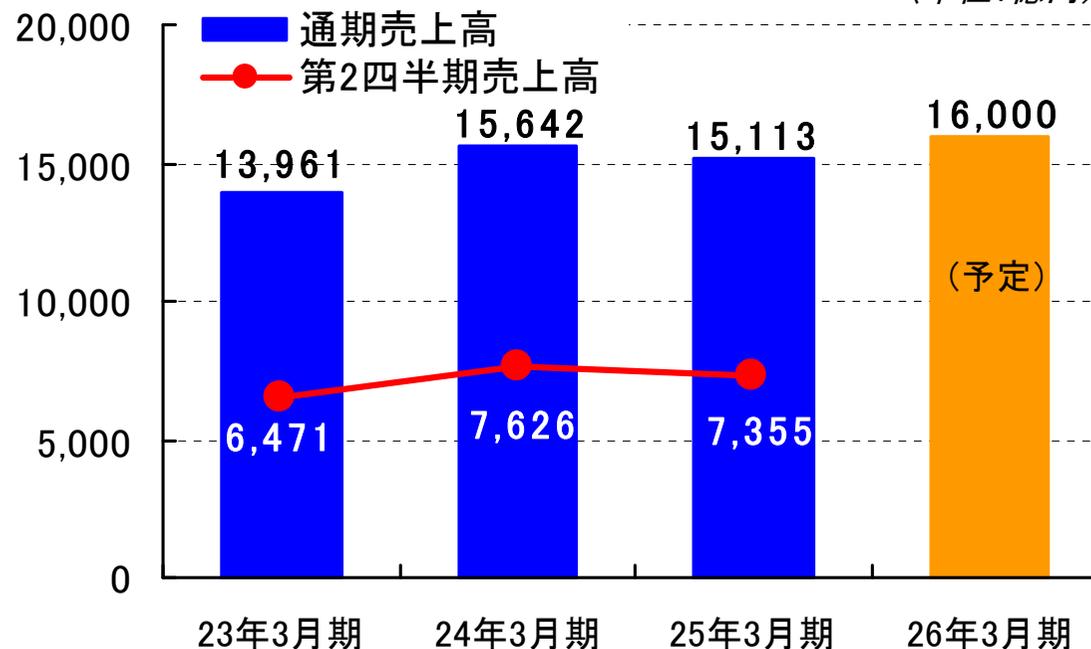
・一株当たり純利益

22円78銭(+0円43銭)

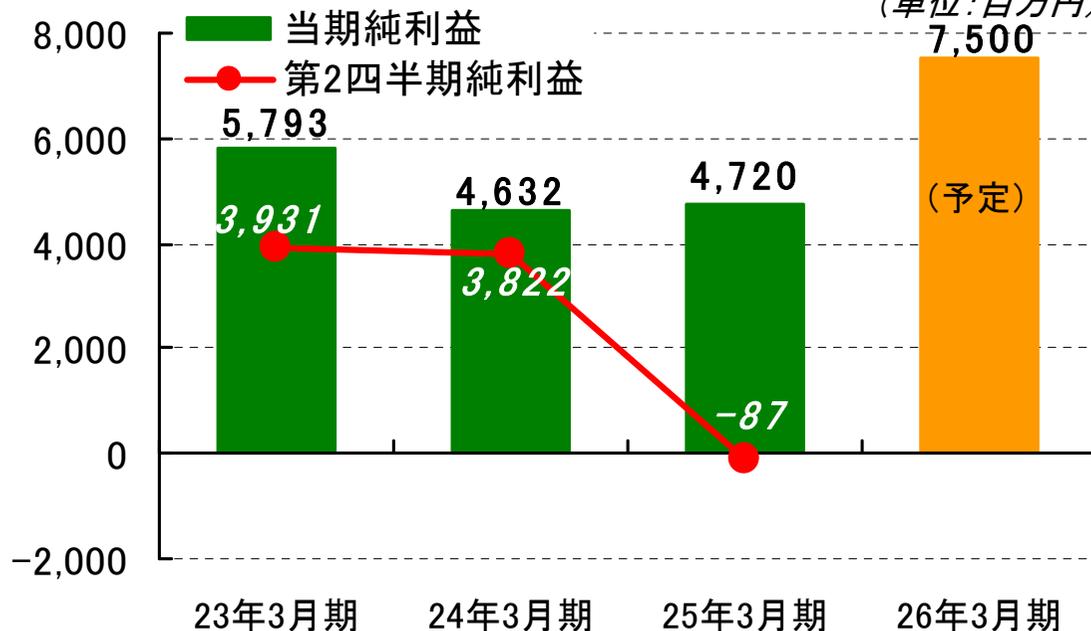
回復基調にあった世界経済は、今期に入り、欧州不安の再燃や中国経済の低迷により減速。国内需要は比較的堅調も、多くの分野で価格下落が継続。

売上高は前期比減少。当期純利益は特別損失や法人税等の減少により増益も、事業収益の低下や為替差損の発生により、経常利益段階までは減益に。

(単位:億円)



(単位:百万円)



(単位:百万円)

	当期末	前期末	前期末比
総資産	552,908	582,404	Δ5.1%
流動資産	435,301	467,982	Δ7.0%
固定資産	117,607	114,422	+2.8%
負債	432,233	466,448	Δ7.3%
Net有利子負債	212,883	219,594	Δ3.1%
純資産	120,674	115,956	+4.1%
株主資本	117,088	114,209	+2.5%
その他の包括利益 累計額	1,143	Δ580	—
少数株主持分	2,442	2,326	+5.0%

・総資産

売上債権やたな卸資産の減少により、5.1%の減少。

・有利子負債

運転資金需要の減少により、3.1%の減少。ネットDERは1.8倍に若干改善。

・純資産

当期純利益の積み上がりに加え、円安による為替換算調整勘定の改善などにより、4.1%の増加。
自己資本比率は、21.4%。

・一株当たり純資産

570円50銭

(+22円28銭)

キャッシュ・フローの状況（連結）

(単位:百万円)

	当 期	前 期	増 減
営業活動による キャッシュ・フロー	19,380	11,970	+7,410
投資活動による キャッシュ・フロー	△5,106	△12,009	+6,903
財務活動による キャッシュ・フロー	△16,363	1,596	△17,959
現金及び現金同等物 期末残高	23,198	23,411	△213

・ 営業活動CF
売上債権やたな卸資産の減少などにより、193億円の収入。

・ 投資活動CF
有形固定資産や投資有価証券の取得に係る支出により、51億円の支出。

・ 財務活動CF
短期借入金の返済などにより、163億円の支出。

事業セグメント別の状況（連結）

売上高

	当期	前期	前期比
鉄鋼	718,170	745,031	△3.6%
金属原料	94,766	126,279	△25.0%
非鉄金属	73,273	62,054	+18.1%
食品	83,800	91,709	△8.6%
石油・化成品	444,280	457,578	△2.9%
報告セグメント計	1,414,291	1,482,653	△4.6%
その他	167,494	139,818	+19.8%
合計	1,581,786	1,622,472	△2.5%
調整額	△70,461	△58,221	△21.0%
PL計上額	1,511,324	1,564,250	△3.4%

セグメント利益

(単位:百万円)

	当期	前期	前期比
鉄鋼	9,598	9,349	+2.7%
金属原料	320	1,286	△75.1%
非鉄金属	686	851	△19.4%
食品	747	1,180	△36.7%
石油・化成品	1,673	2,671	△37.4%
報告セグメント計	13,026	15,340	△15.1%
その他	1,222	1,689	△27.6%
合計	14,248	17,030	△16.3%
調整額	△5,377	△3,913	△37.4%
PL計上額	8,871	13,116	△32.4%

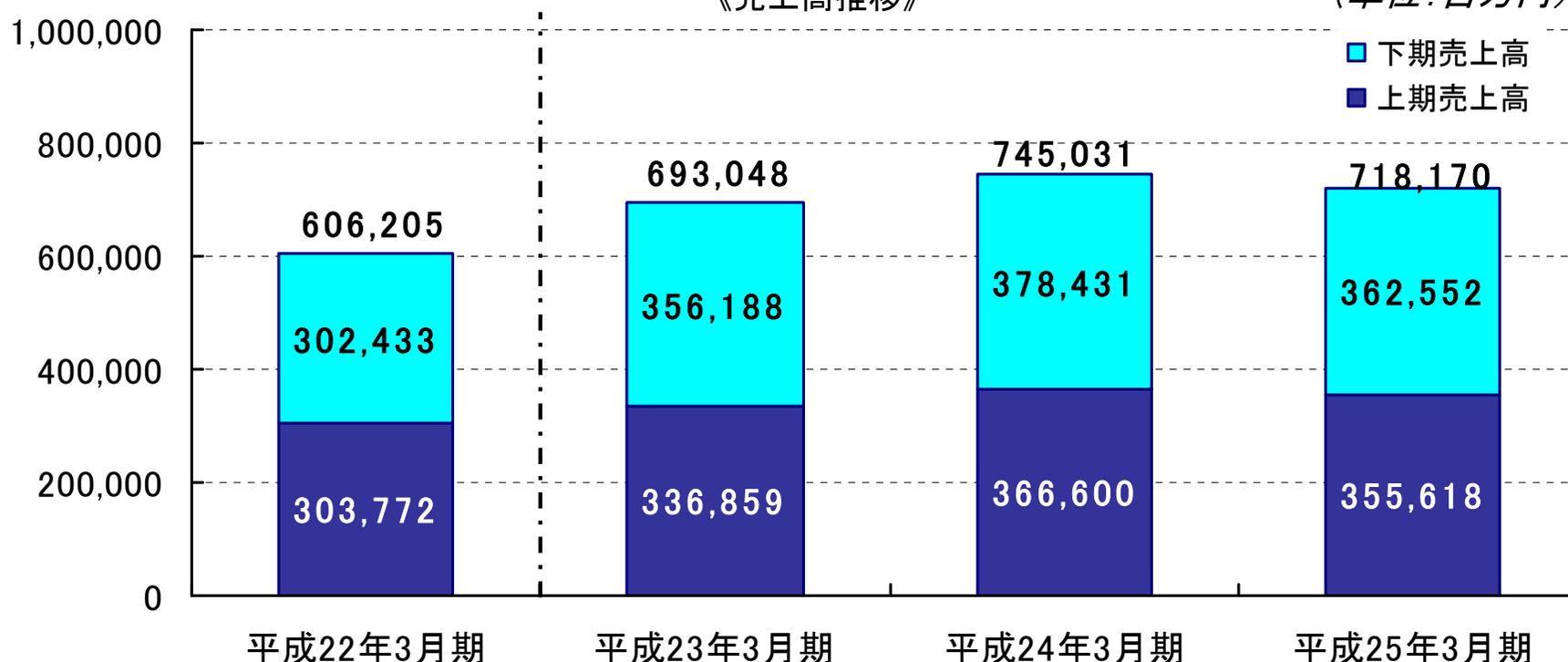
(単位:百万円)

	売上高	セグメント利益	利益率
当期	718,170	9,598	1.3%
前期	745,031	9,349	1.3%

建設分野では、震災復興関連は本格化しなかったが、土木分野や中小建築物件中心に需要を捕捉、製造業向けも稼働水準は概ね堅調に推移。市況は下期半ばまで下落基調が継続し採算確保に苦しんだが、期終盤の円安による為替環境の好転や市況の底入れにより、若干の増益に。

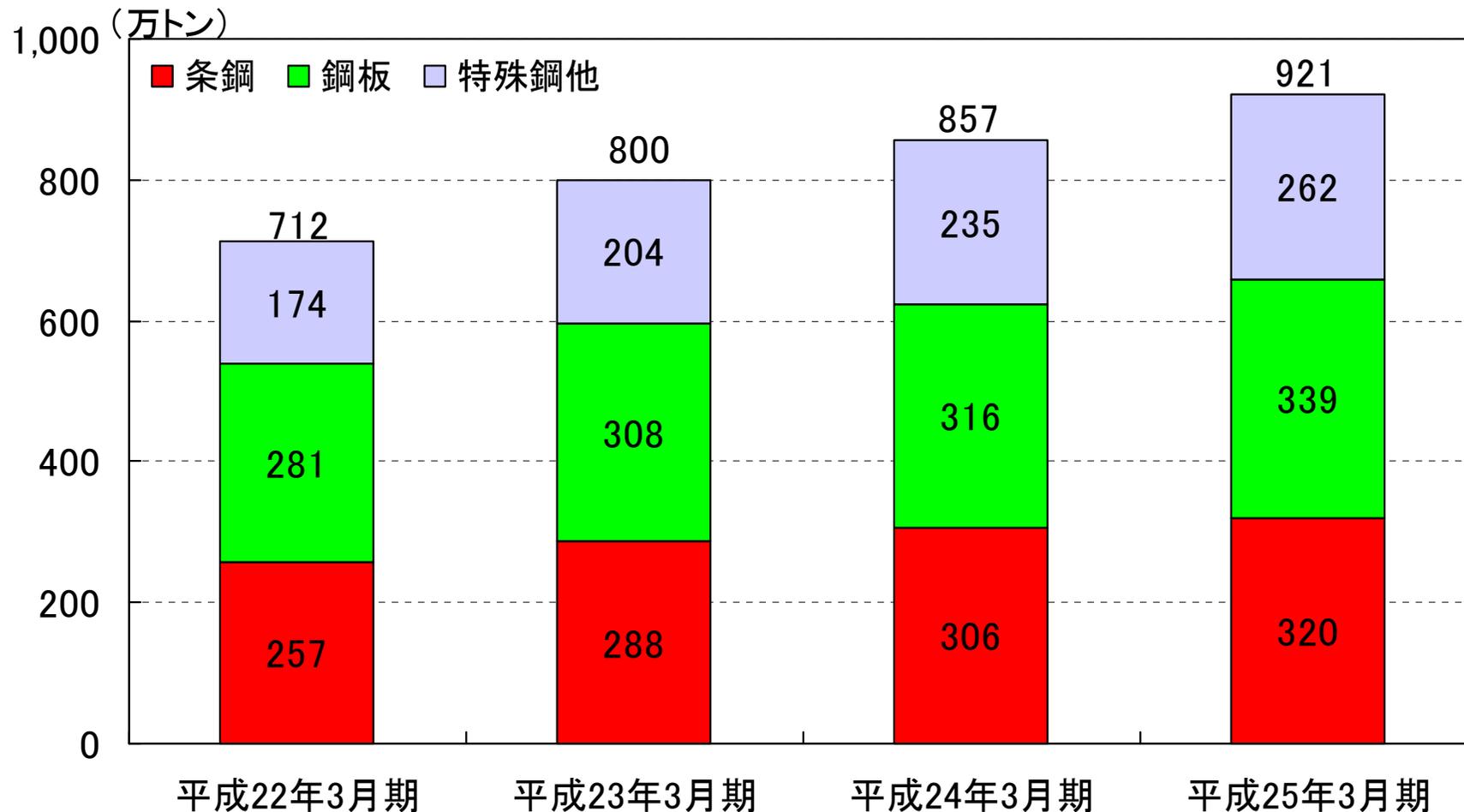
《売上高推移》

(単位:百万円)



※平成23年3月期より、「セグメント情報等の開示に関する会計基準」(企業会計基準委員会 平成21年3月27日 企業会計基準第17号)を適用し、事業セグメントを取扱商品による区分から経営管理上の区分に変更しているため、業績数値は接続していません。

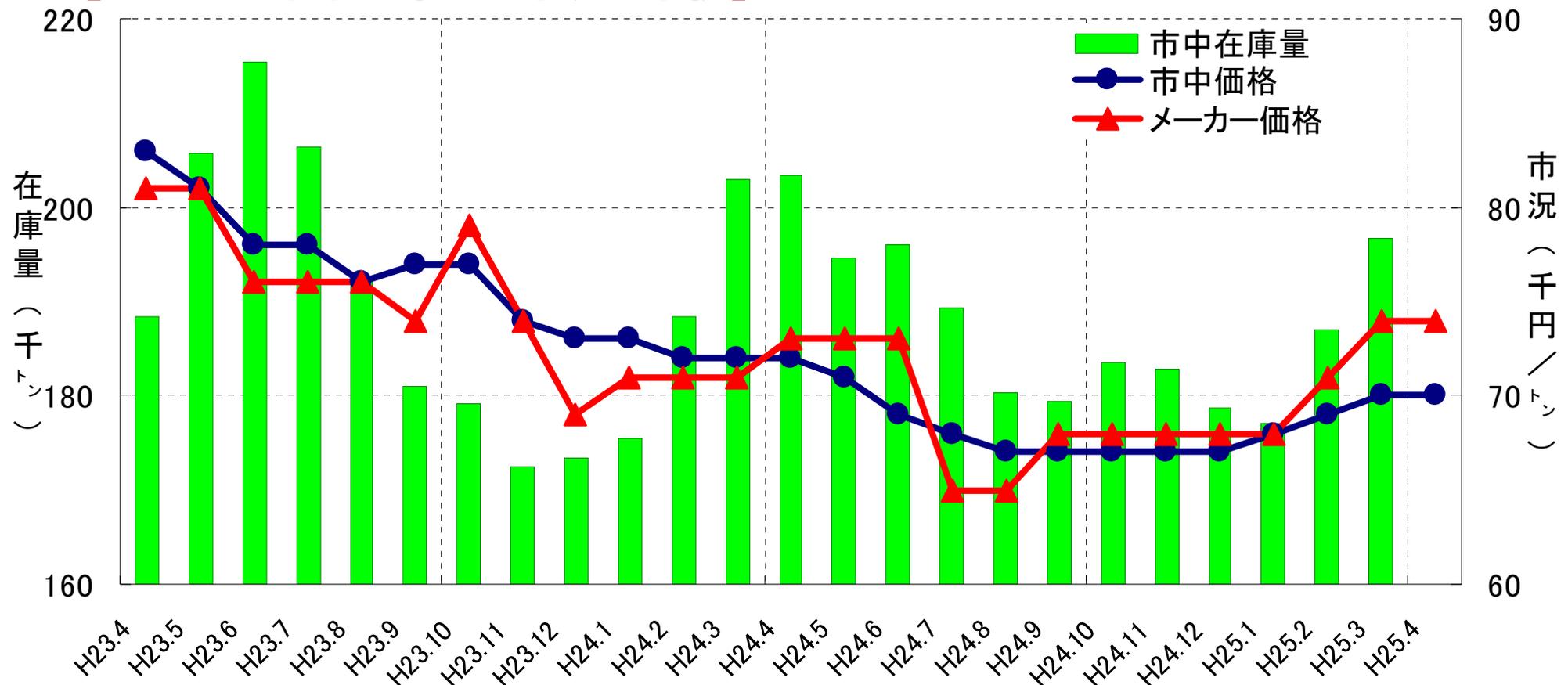
店売り市場の不振、海外市況の低迷など厳しい環境ではあったが、条鋼類、鋼板類ともに増加基調を維持。
特殊鋼他に含まれている鉄スクラップの扱ひ量も増加している。



期初、復興需要を見込んだ増産傾向から市中在庫が増加した一方で、店売り市場では目立った需要増加が無く、市中価格は第3四半期までほぼ一貫して下落基調に。

今年に入り、原料価格の上昇や経済・金融政策への期待感から景況感が改善。市況も底入れの機運が高まったが、足元、実需の増加がなく、頭打ち感も。

【H形鋼 市中在庫量と市況の推移】

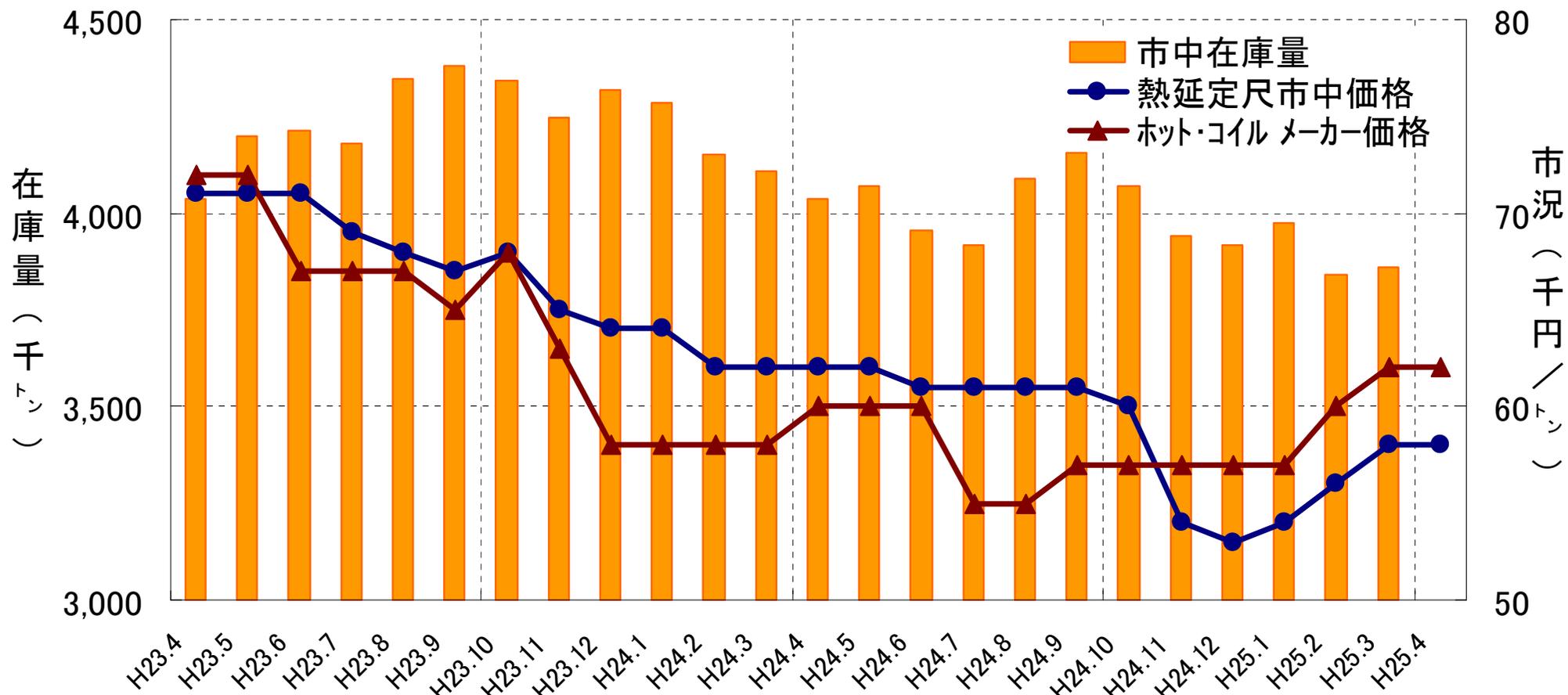


(出所: 在庫/ときわ会、価格/鉄鋼新聞)

製造業の稼働は堅調も、スポット需要の低迷により、店売り市況は弱含みで推移。

下期以降は、原料価格の上昇や景気回復期待から価格底入れも、実需の増加に力強さが欠け、足元は伸び悩み。

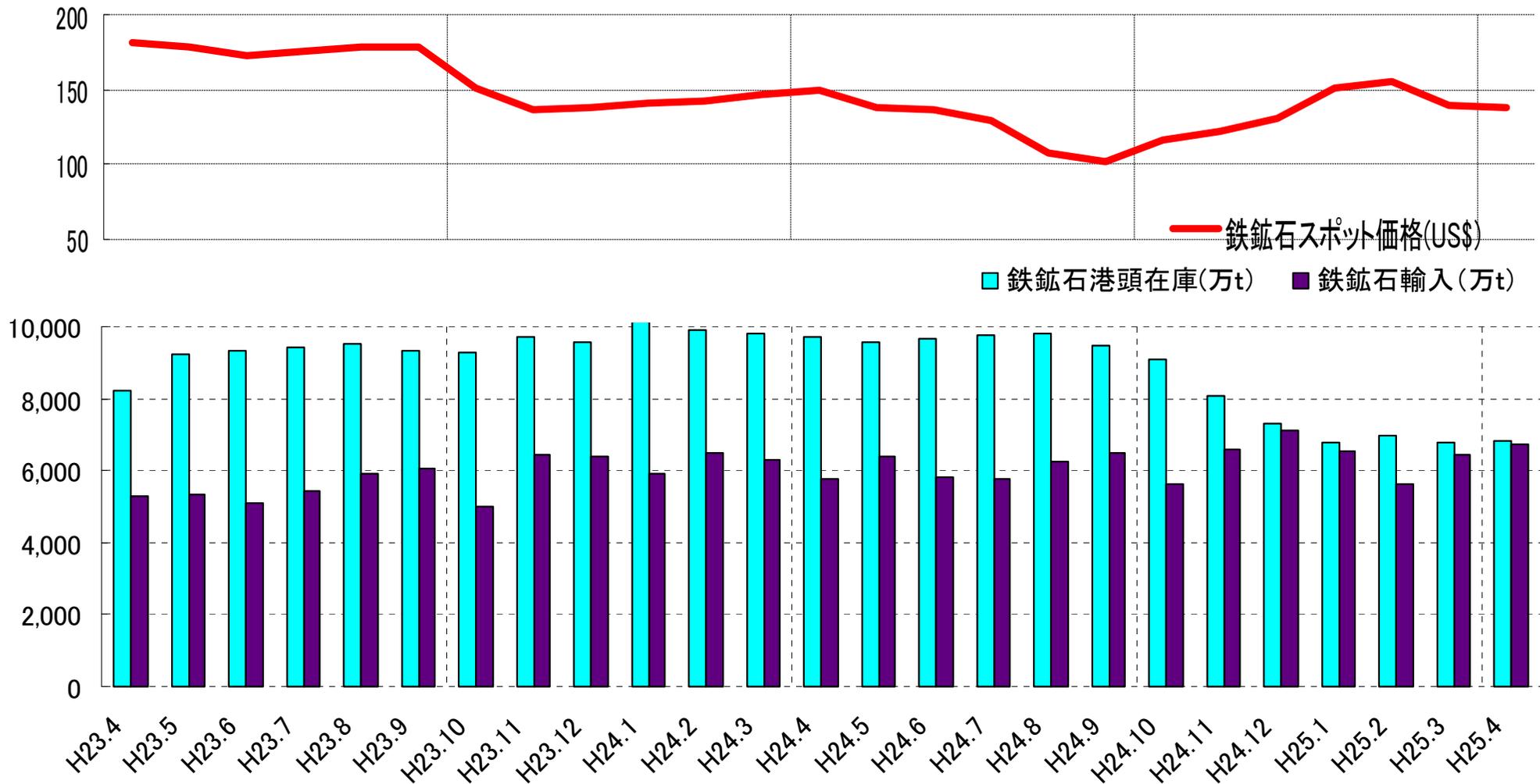
【薄板3品 市中在庫量と熱延鋼板市況の推移】



(出所:在庫/日本鉄鋼連盟、価格/鉄鋼新聞)

中国の輸入鉄鉱石価格は、上期は欧州向け需要の停滞や国内鋼材市況の下落などにより、概ね下落基調で推移。下期以降、経済対策期待や港頭在庫の減少により切り上がるも、政策の不発や鋼材需要の低迷により、足元は再び弱基調に。

【中国の鉄鉱石市場】

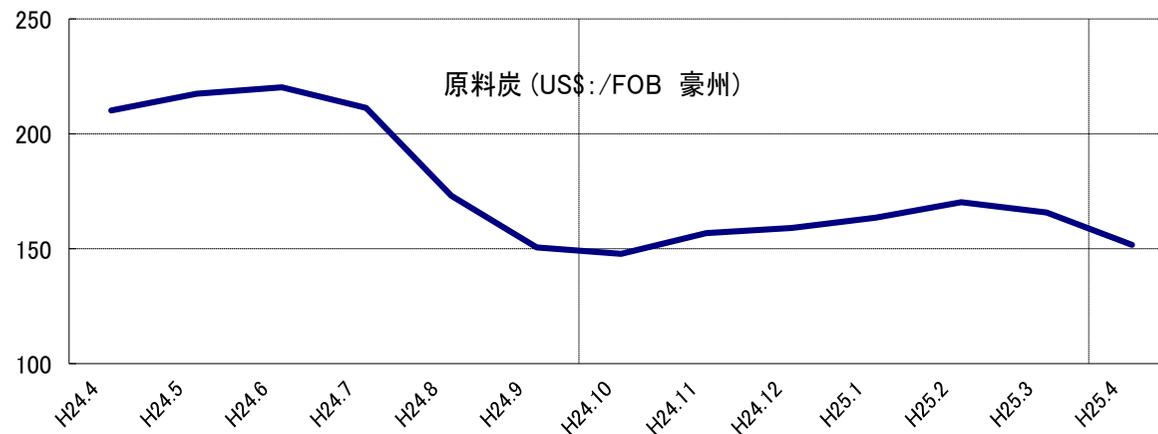


(出所：Interfax、中国海関統計)

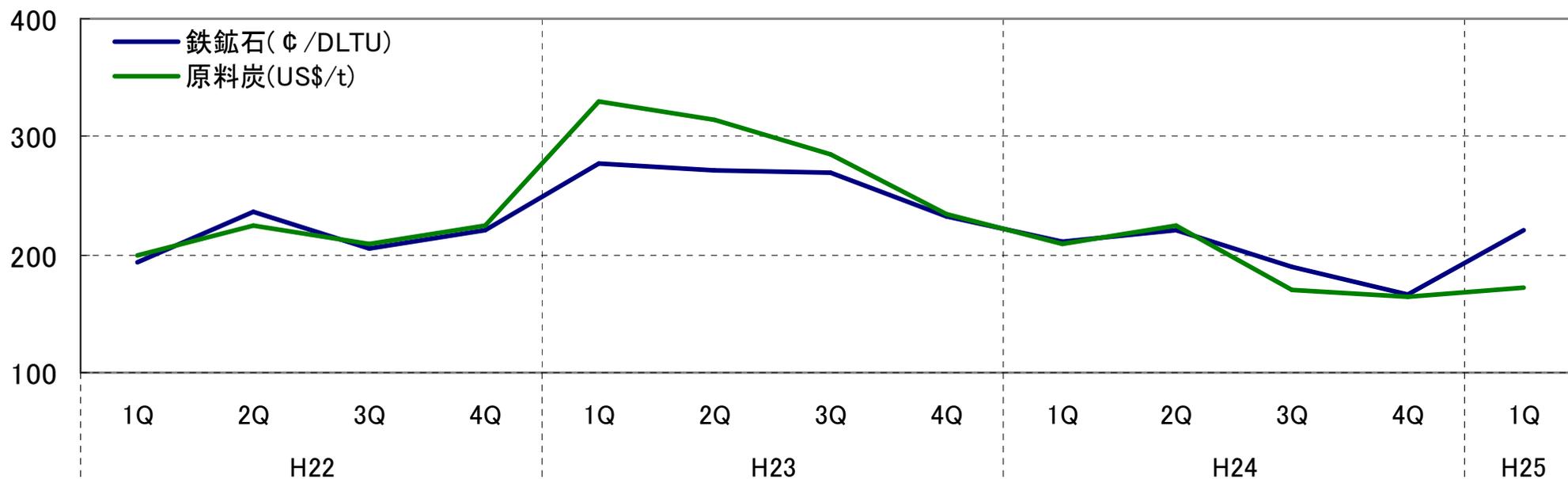
原料炭も中国需要の低迷を反映し、年度中盤まで下落基調。春節明け後の需要期待で切り上がるも、足元再び下落。

山元との契約価格は、第2四半期に若干値上げ後、再び下落も下期のスポット市況の上昇により、この第1四半期は上昇。

【原料炭価格の推移】



【山元と高炉メーカーとの契約価格】

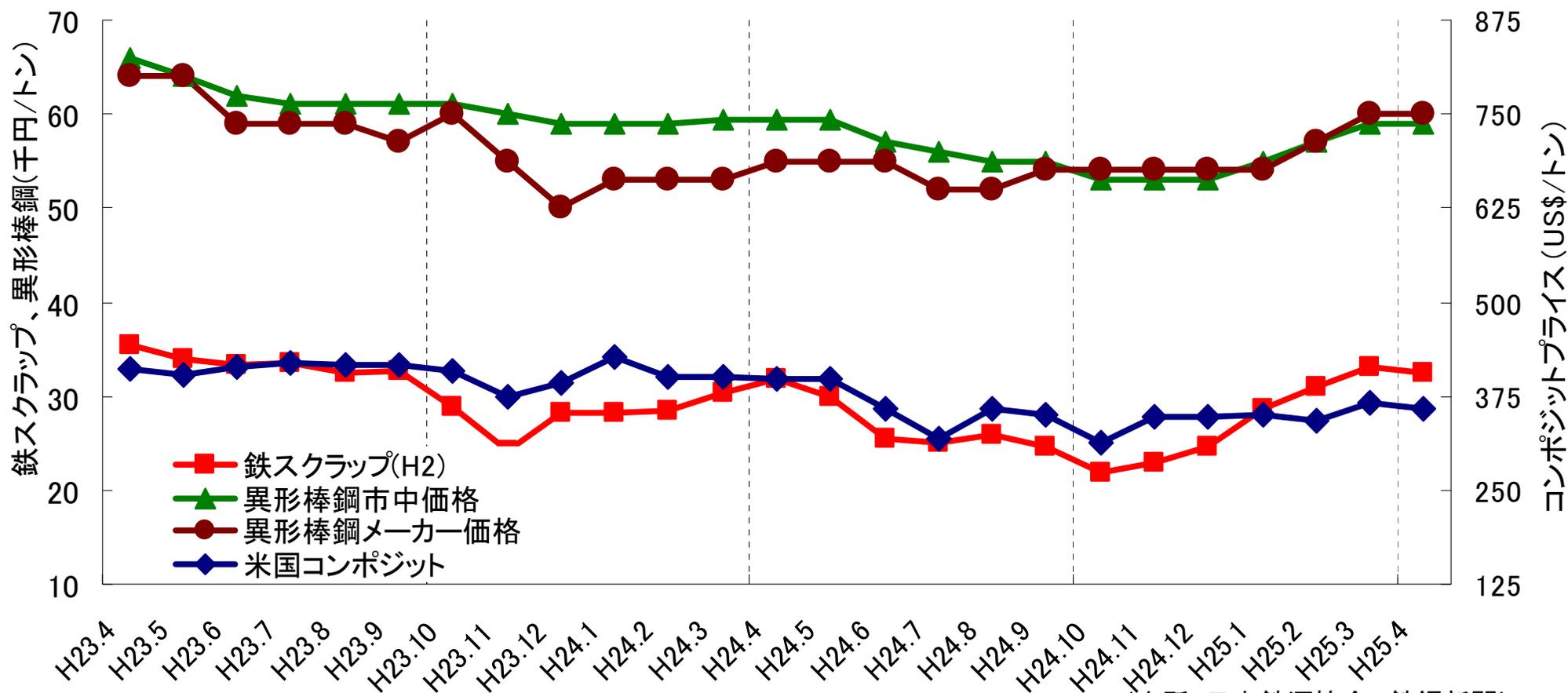


(出所:各種報道)

トルコ、韓国、中国などの買いが少なく、スクラップ市況は2012年内は軟調推移。2013年に入り、円安による日本層の割安感から輸出向けが市況を牽引し、国内電炉も購入価格の引上げに動いた。

足元は海外勢の買いも一服し、弱い基調にある。

【鉄スクラップと異形棒鋼市況の推移】

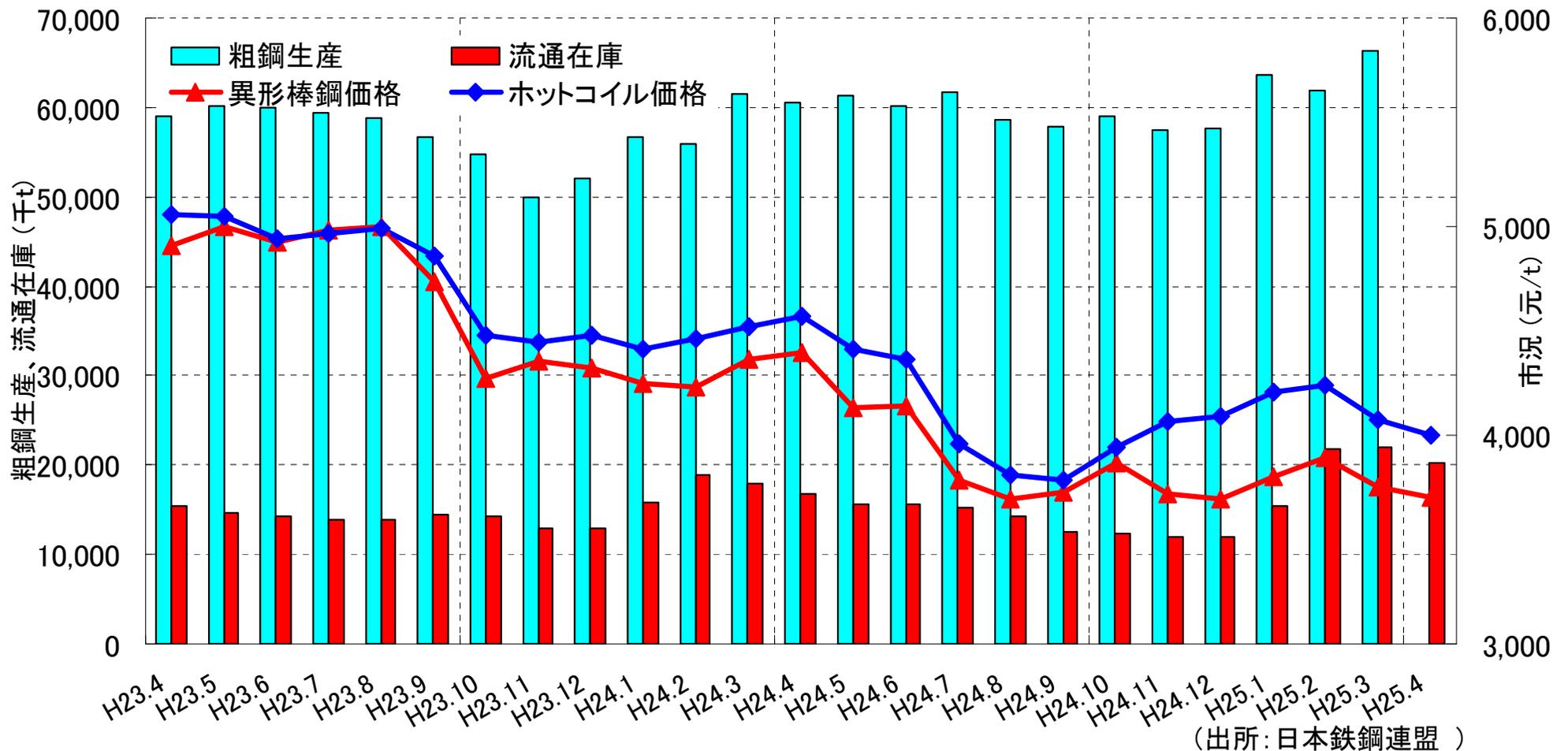


(出所: 日本鉄源協会 鉄鋼新聞)

需要低迷により鋼材市況が軟化しても、粗鋼生産は高い水準が続く。

下期には国慶節明けや春節明け後の需要回復期待から市況の上昇局面もあったが、実際には目立った需要の盛り上がりもなく、足元は再び下落基調に。

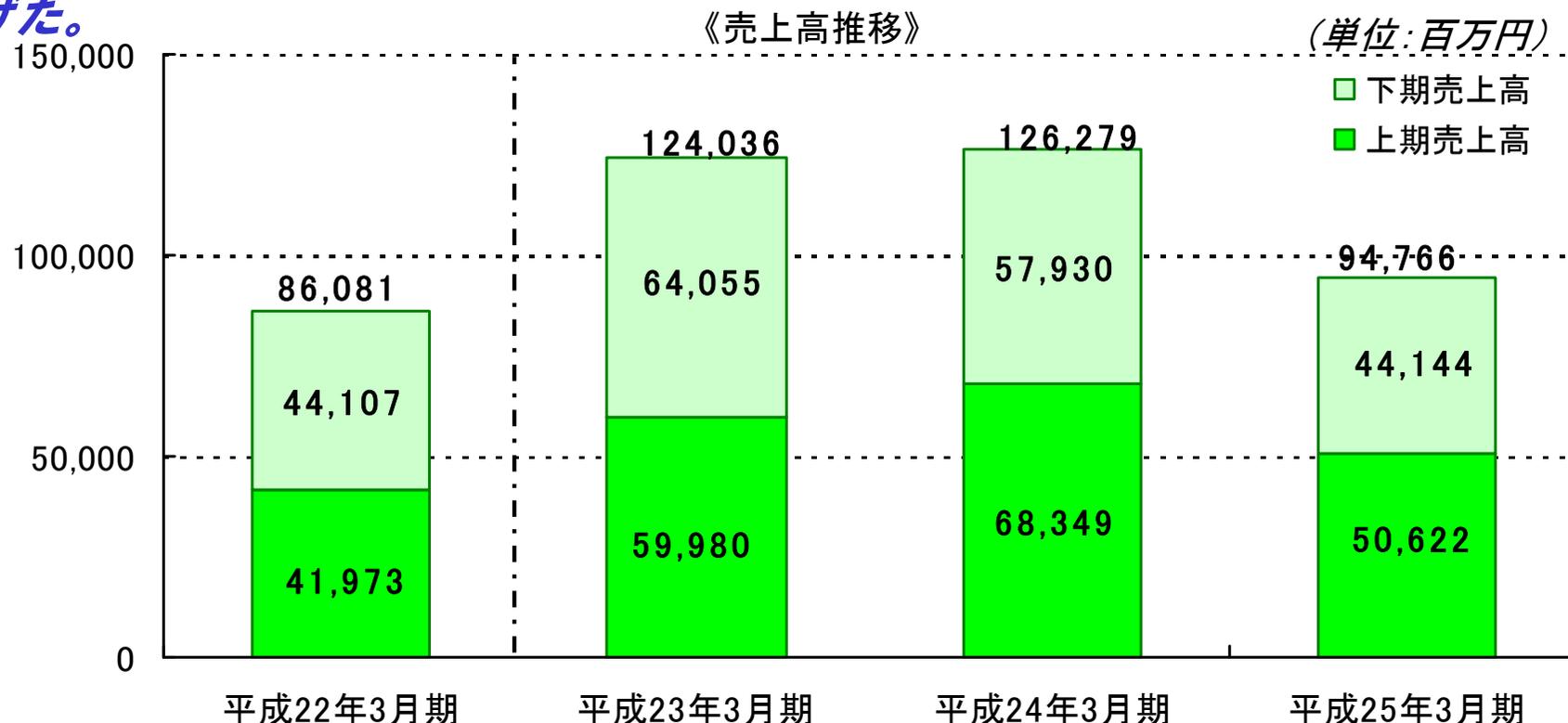
【鉄鋼需給と鋼材市況の推移】



(単位:百万円)

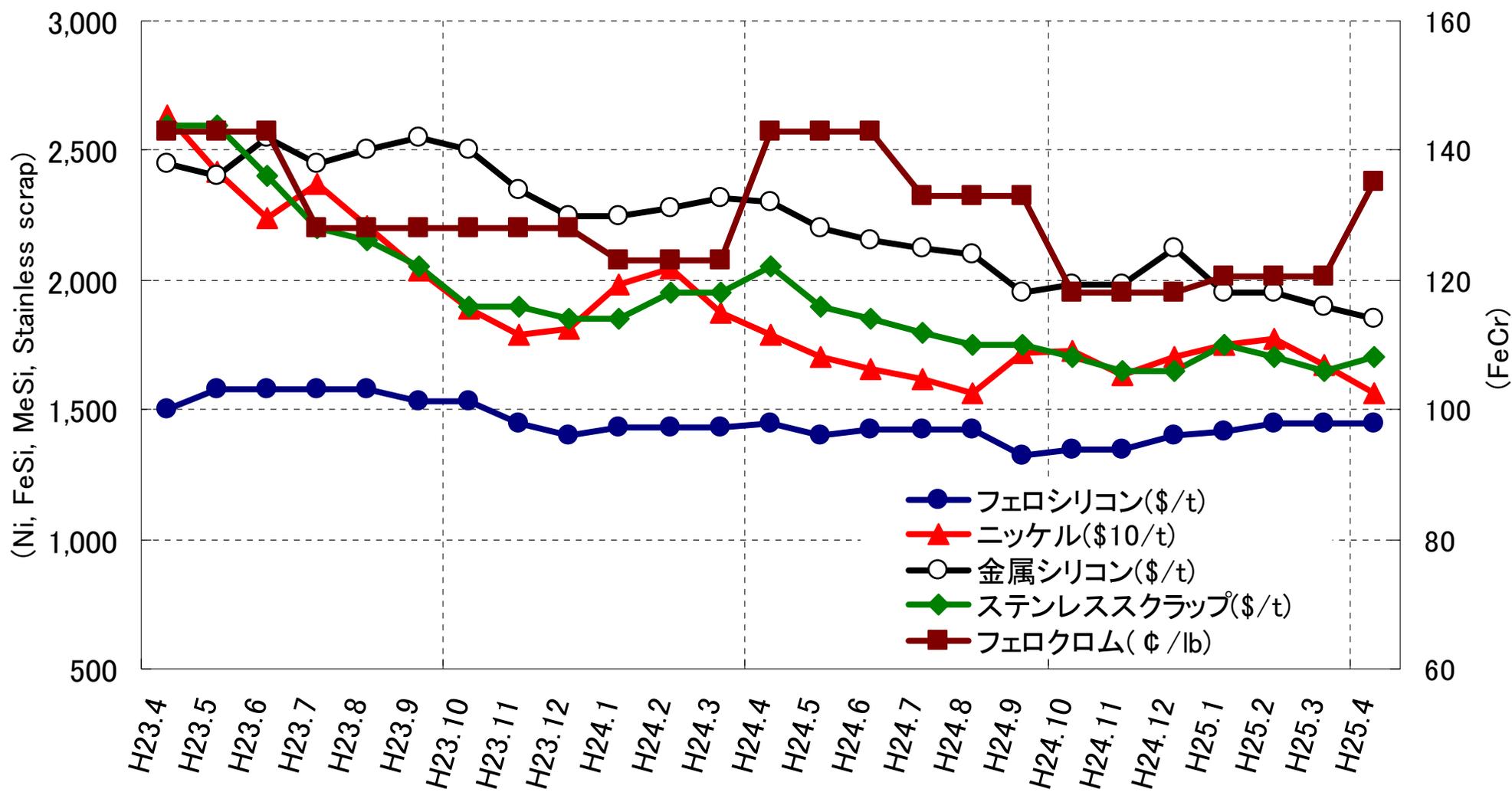
	売上高	セグメント利益	利益率
当期	94,766	320	0.3%
前期	126,279	1,286	1.0%

世界的なステンレス需要の低迷により、メーカー減産が継続。原料需要が減退し、市場価格は下落。販売量が伸び悩む中、スクラップ発生減からの仕入れコストの上昇や、円安基調への転換による為替差損の発生も利益を押し下げた。



※平成23年3月期より、「セグメント情報等の開示に関する会計基準」(企業会計基準委員会 平成21年3月27日 企業会計基準第17号)を適用し、事業セグメントを取扱商品による区分から経営管理上の区分に変更しているため、業績数値は接続していません。

ステンレス需要の低迷から原料需要が減退し、ニッケルや合金鉄などステンレス関連原料は全般的に弱含みで推移。
 下期は若干持ち直すも、足元は弱い動きになっている。



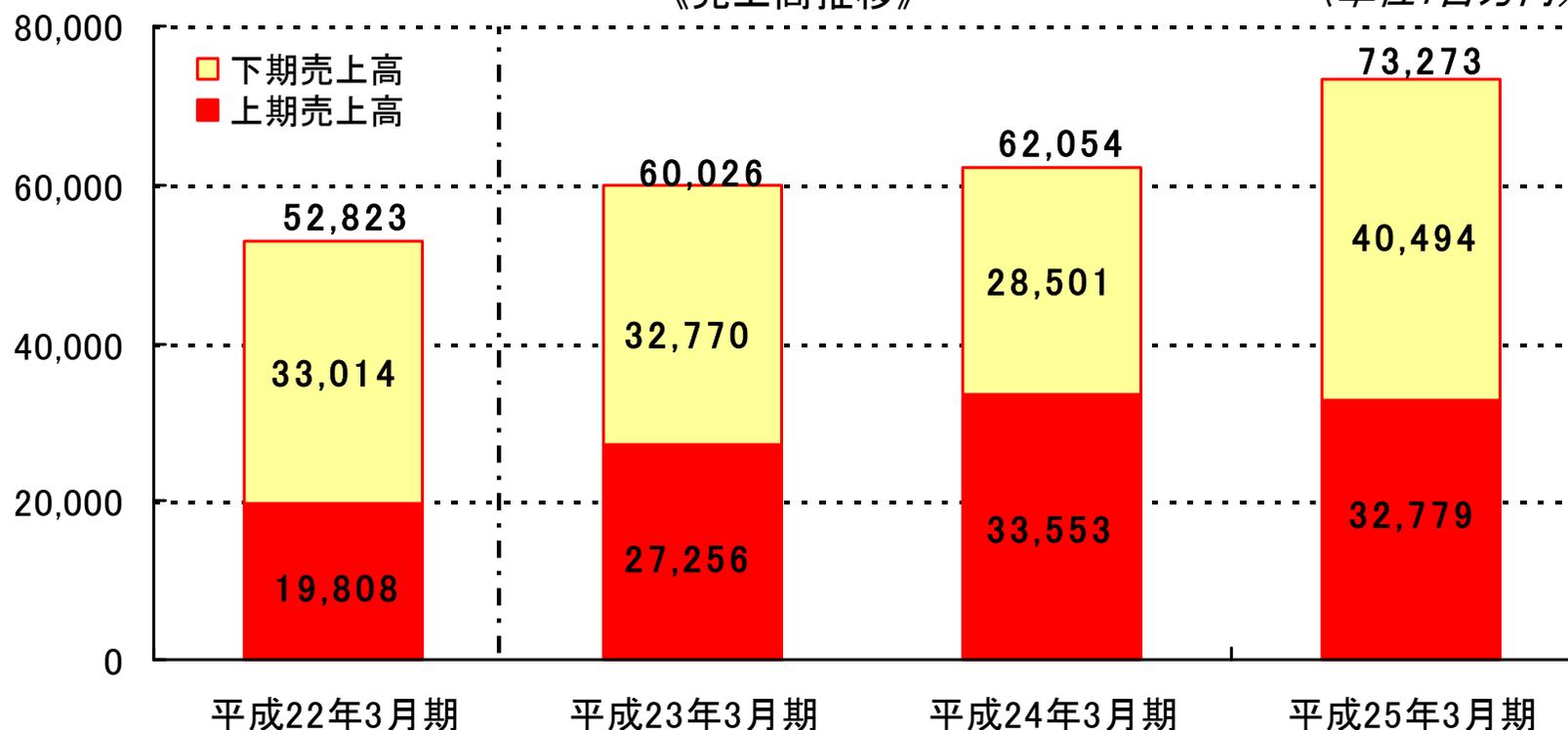
(単位:百万円)

	売上高	セグメント利益	利益率
当期	73,273	686	0.9%
前期	62,054	851	1.4%

ベースメタル・スクラップの販売量は増加したものの、国際市況の下落と発生減による仕入コスト上昇のため、収益面では苦戦。貴金属屑の取扱い増が収益に貢献するも、円安による為替差損の発生により、減益に。

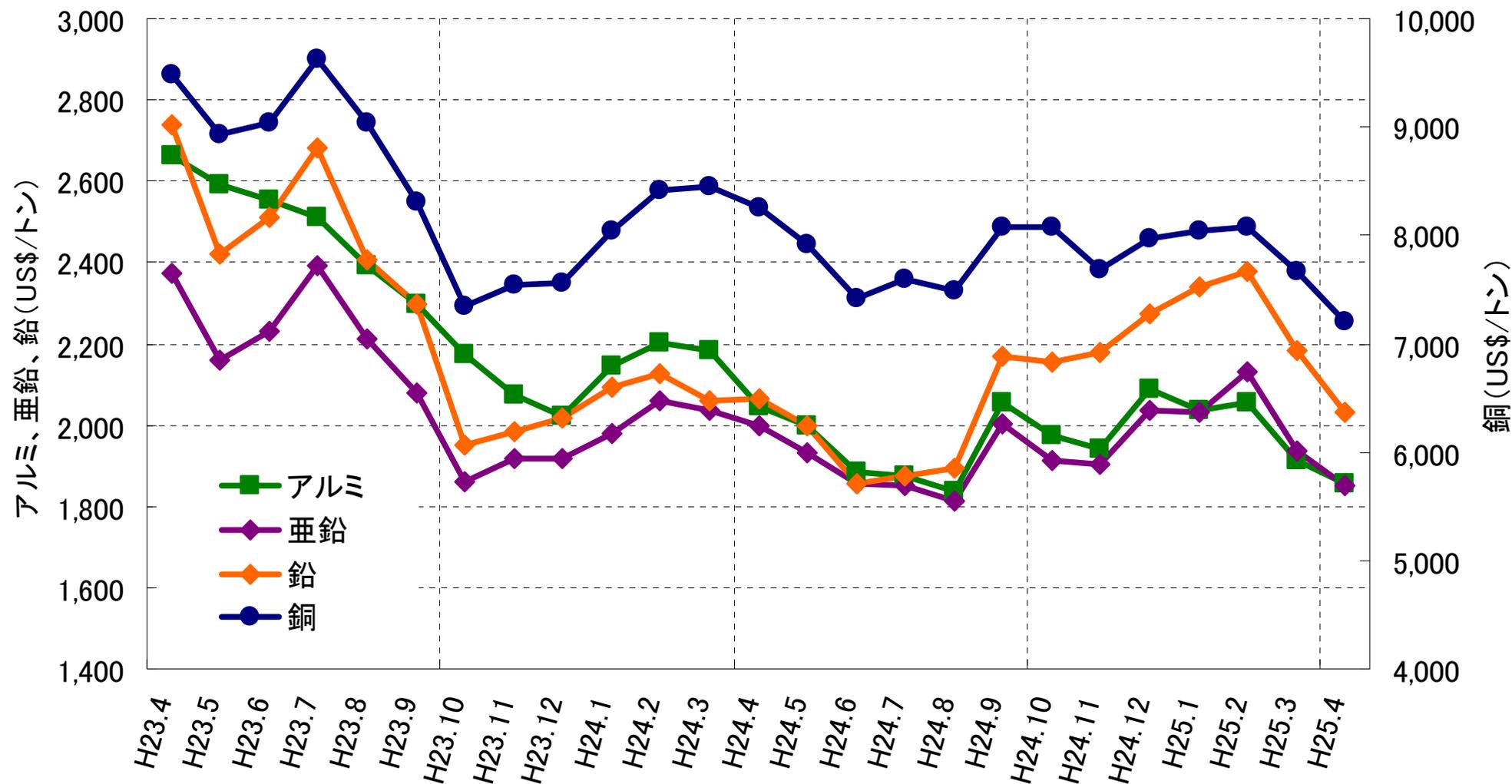
《売上高推移》

(単位:百万円)



※平成23年3月期より、「セグメント情報等の開示に関する会計基準」(企業会計基準委員会 平成21年3月27日 企業会計基準第17号)を適用し、事業セグメントを取扱商品による区分から経営管理上の区分に変更しているため、業績数値は接続していません。

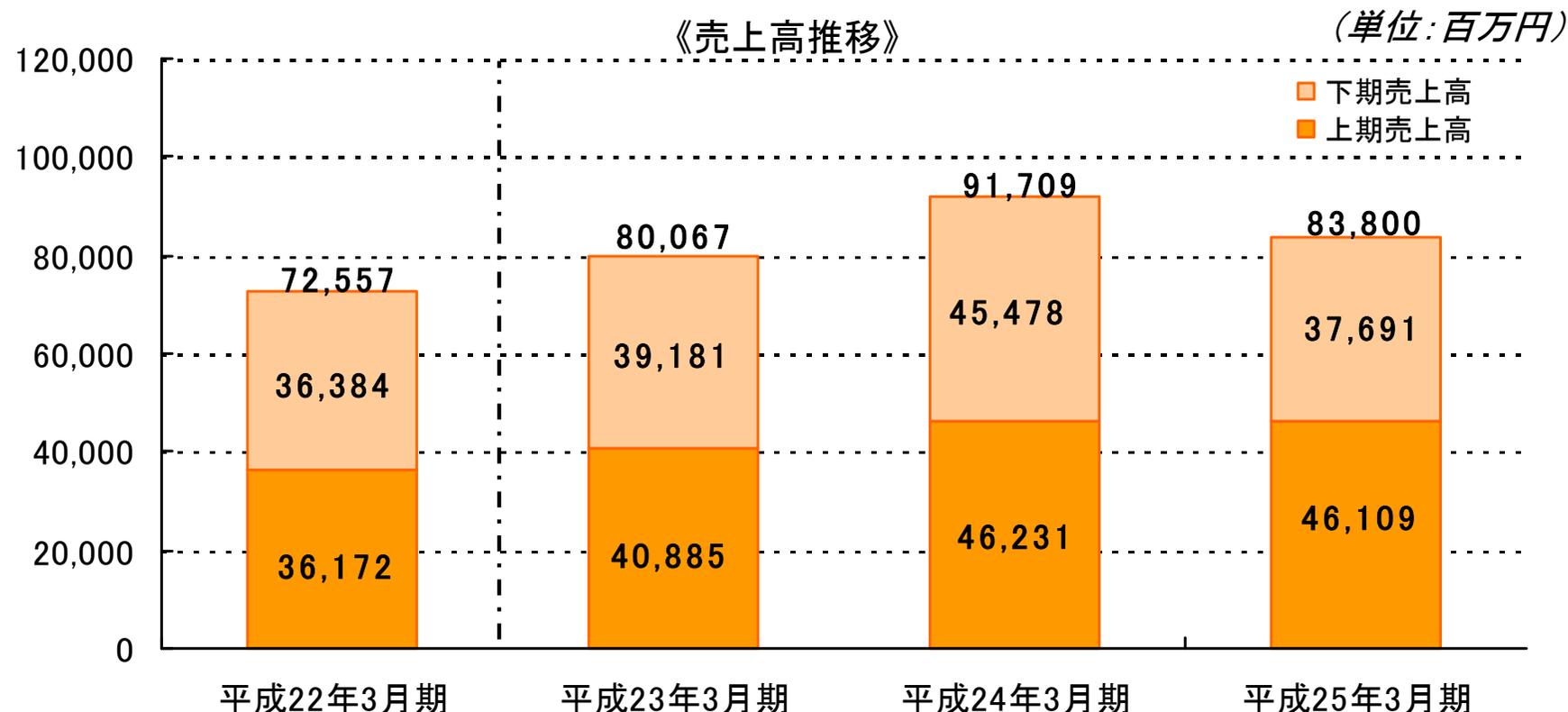
LME価格は金融環境の変化により上下動するも、全般的には前期より低い水準で推移。9月以降、米国金融緩和や中国景気刺激策への期待感から上昇局面が増えるものの、足元は欧州不安の再燃など先行きの不透明感から、再び弱い基調に。



(単位:百万円)

	売上高	セグメント利益	利益率
当期	83,800	747	0.9%
前期	91,709	1,180	1.3%

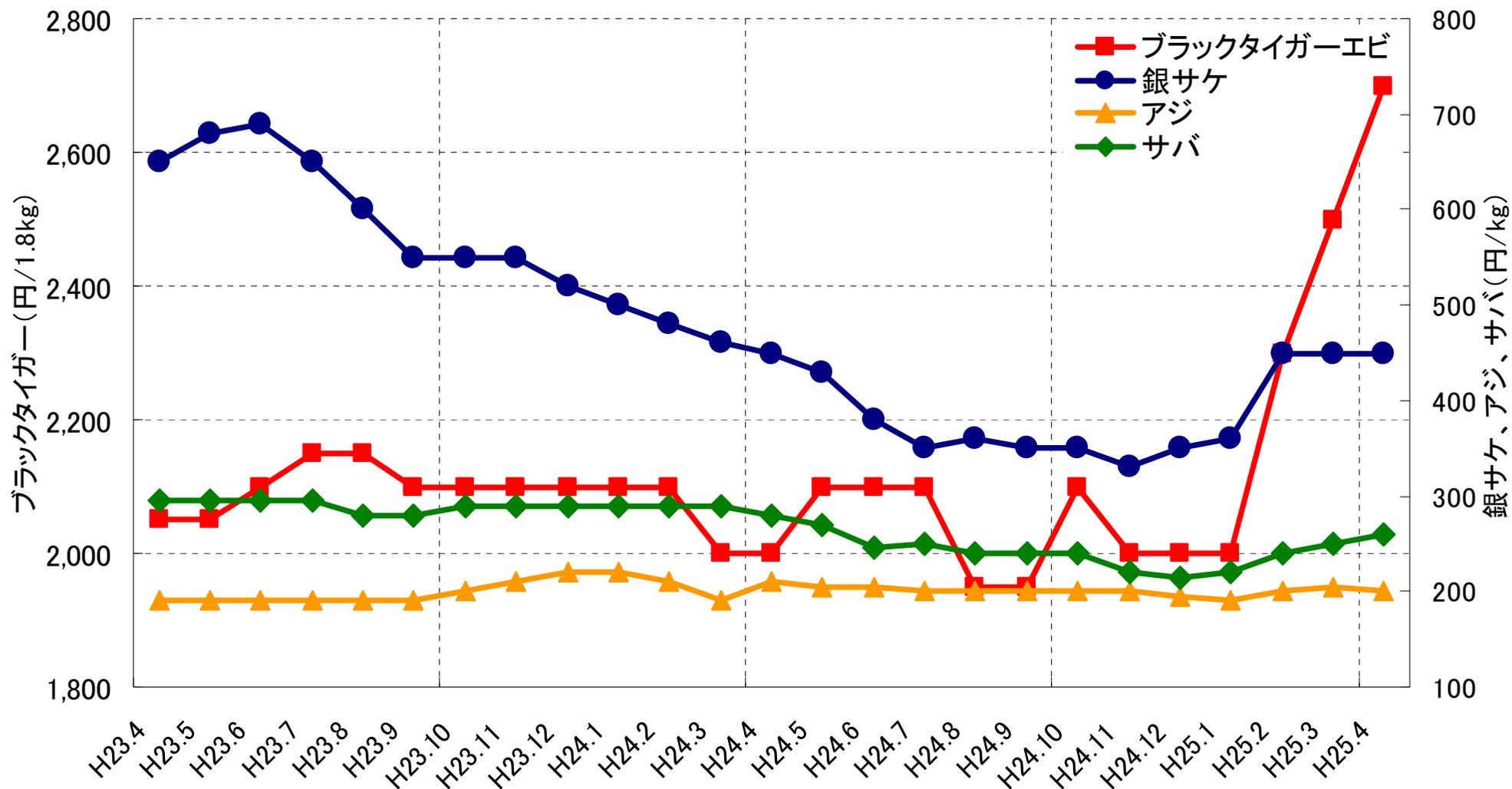
国内需要は低調に推移。前期に暴落した養殖サケが今期に入っても続落し、他の魚種の価格や販売の下げ要因に。エビなど主力商品も価格低迷の期間が長く、収益を押し下げた。



※平成23年3月期より、「セグメント情報等の開示に関する会計基準」(企業会計基準委員会 平成21年3月27日 企業会計基準第17号)を適用し、事業セグメントを取扱商品による区分から経営管理上の区分に変更しているため、業績数値は接続していません。

養殖サケの価格が今期に入っても下落。世界景気の低迷でエビの国際価格も弱含みで推移していた。

2013年に入り、円安基調への転換後は、価格水準を切り上げている。



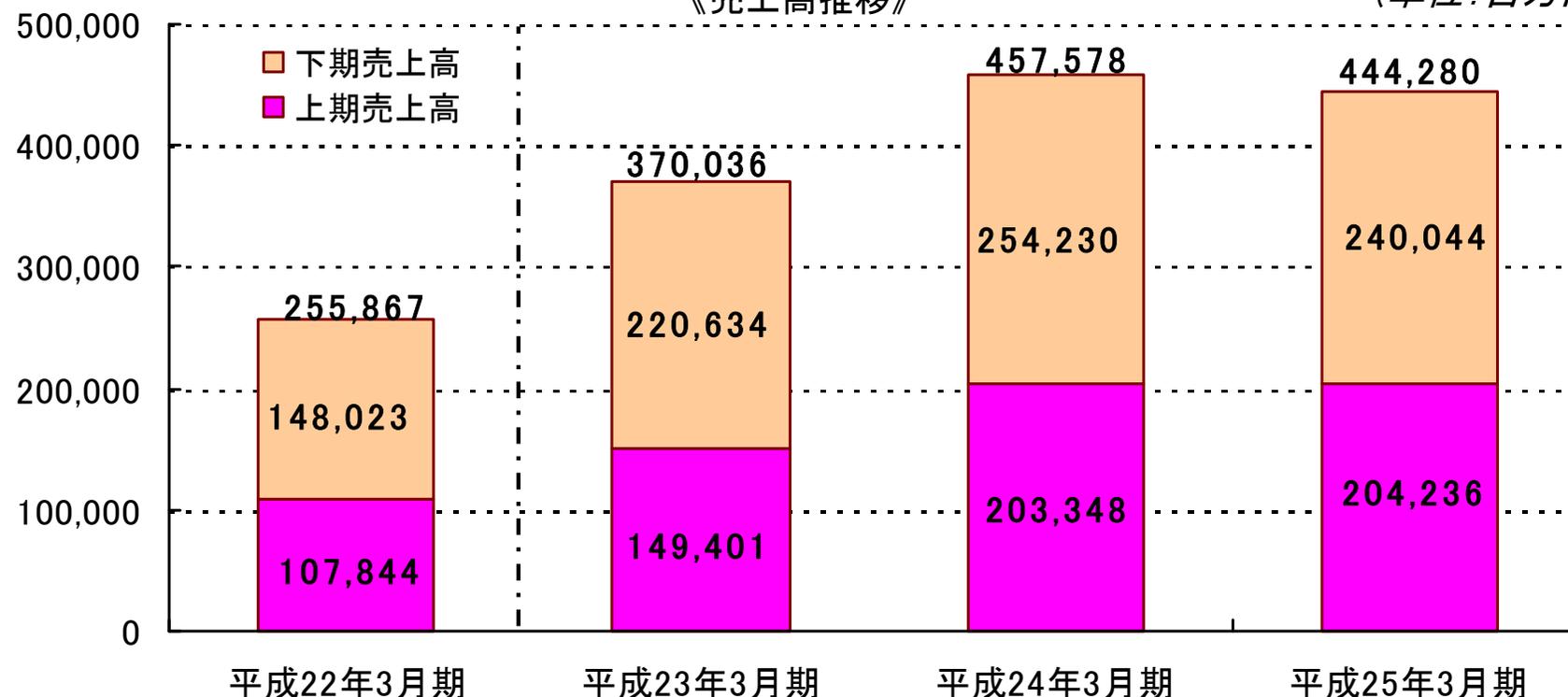
(単位:百万円)

	売上高	セグメント利益	利益率
当期	444,280	1,673	0.4%
前期	457,578	2,671	0.6%

景気低迷や海上輸送の停滞により、産業用燃料や船用石油の需要は低調に推移。末端の販売競争が激しい中で、製品仕入価格の上昇を転嫁しづらく、採算面では厳しい環境となった。

《売上高推移》

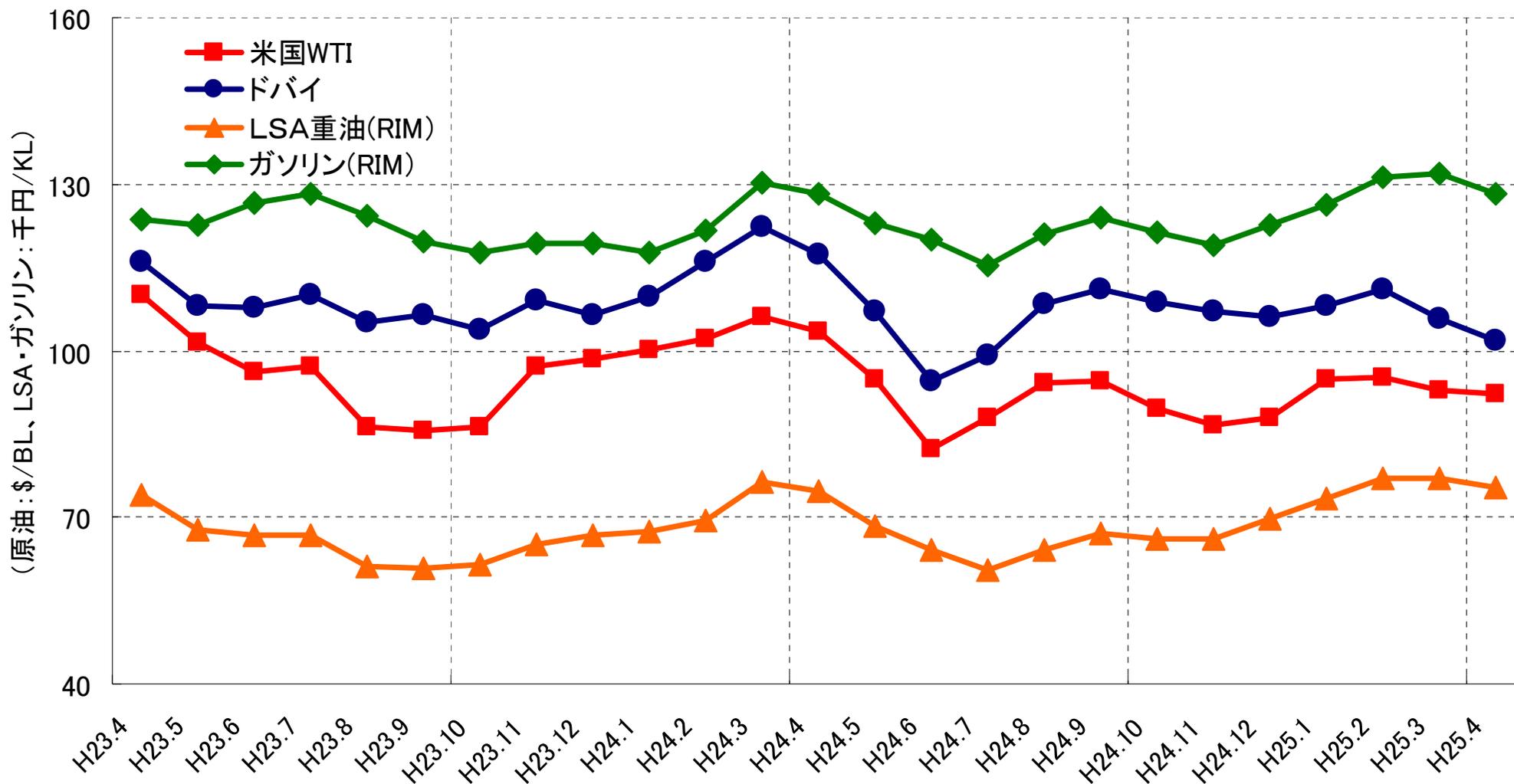
(単位:百万円)



※平成23年3月期より、「セグメント情報等の開示に関する会計基準」(企業会計基準委員会 平成21年3月27日 企業会計基準第17号)を適用し、事業セグメントを取扱商品による区分から経営管理上の区分に変更しているため、業績数値は接続していません。

原油価格は欧州の金融不安や中国経済の減速、米国在庫の状況などに影響されて上下動するも、全体的には弱含みで推移。

実需も低迷したが、製品価格については、製油所のトラブルなどのために年度後半は上昇傾向に。



【国内事業の深耕】

国内拠点の拡充・・・岡山営業所開設（H24年4月）

堺流通センター、九州流通センター開設（H24年4月）

機能強化のM&A・・・カネキ 子会社化（H24年8月）

廣内圧延工業 子会社化（H24年8月）

正起金属加工 出資（H24年10月 H26年に子会社化予定）

ハンワフーズ 設立（H24年11月）

三栄金属 株式取得合意（H25年3月 10月に子会社化予定）

【海外展開の強化】

海外拠点の拡充・・・天津事務所開設（H24年6月）

メキシコ事務所開設（H24年11月）

事業投資の推進・・・ベトナム/SMC Trading 出資（H24年5月）

中国/渤海鋼鉄集団 包括提携締結（H24年7月）

加工機能の強化・・・HANWA STEEL SERVICE MEXICANA 設立（H24年11月）

PT.HANWA ROYAL METALS 合併設立（H25年2月）

平成26年3月期(通期)の連結業績予想

依然として欧州や中国の景気動向など不透明要素は残り、楽観できない状況だが、政府の経済対策や復興需要の本格化など需要への良い影響も期待できる。

配当は中間配当6円、期末配当6円を実施予定。

(単位:百万円)

	平成26年3月期(予想)	平成25年3月期(実績)
売上高	1,600,000	1,511,324
営業利益	14,700	12,491
経常利益	12,500	8,871
当期純利益	7,500	4,720

	年間	中間	期末
1株当たり配当金	12円00銭	6円00銭	6円00銭

本資料で記述されている業績予想並びに将来予測は、現時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。そのため、様々な要因の変化により実際の業績は記述されている将来見通しとは大きく異なる結果となる可能性があることをご承知おき下さい。